

# 『迅速、誠実に対応して着実に実行』



## 株式会社宗像建設

代表取締役

むなかた つねあき

### 宗像 常明

山口商工会議所 常議員・2号議員

1948年防府市生まれ。4歳の時に祖父母が神戸に転居したため、家を引き継ぐために現在地に移住した。大阪大学進学を機に山口市を離れたが、卒業後の1973年に帰山し、宗像建設に入社した。

趣味は読書と釣り。蔵書は社長室の壁を埋め尽くすほど。釣りは、釣り専用の車を持っているほどの熱の入れよう。クロ（メジナ）の釣り期以外の休日には瀬戸内海、日本海と近場の波止にその車で釣りに出かけている。

#### 〔企業概要〕

株宗像建設

住 所：山口市下野小路 36

T E L：083-922-1176

従業員数：19名

### 株宗像建設について教えてください。

1969年に父が興した会社です。父は興亜建設株の山口出張所長を勤めており、退職して宗像建設を創業しました。

1975年に株宗像建設に組織を変更し、現在にいたります。今も土木専門の建設業で、9割が公共工事の請負です。



社屋前には沢山の花。  
季節毎に色とりどりの花が咲きます。

### 宗像社長のプロフィールを教えてください。

生まれたのは防府市ですが、物心ついたときからずっと今の自宅の場所に住

んでいますので、幼い頃は一の坂川で魚を捕ったとか、野田神社の裏山とか亀山や春日山を走り回っていたことをよく覚えています。

父が宗像建設を興して、母が経理をしていましたので、事業は細々としたものだったと思いますが、私たち兄弟3人に大学を卒業させてくれました。私は思い通りの学生生活をおくったことで、社会を視る眼と判断力を養い、今の仕事に役立っていると思っています。弟は神奈川で好きな外科医をしています。

私は勉強が好きだったので、大学に6年間通ったのですが(笑)、1973年、父から「お前が後を継がないのなら、権利を売って欲しいという人がいるのだが、どうする?」という連絡を受け、山口に戻り、会社を継ぐことを決めました。

1975年、株宗像建設に組織変更して専務取締役に就任、1991年に代表取締役に就任し、現在にいたります。

私は経営者ですので、会社や業界の

ことは社会状況の変化に対応してしっかり考えてきましたが、まちづくりについても、色々と考え、活動してきました。特に自宅のある大殿地区は、沢山の寺社仏閣をはじめとする歴史的遺産と、豊かな自然など山口市の魅力が詰まっている地域だと思います。この魅力をもっと発信できるように、地域のみならず頑張っていきたいと思っています。

### 趣味は釣りだと伺いました。

磯釣り・波止釣りが大好きで、生き甲斐みたいなものです。私たちの仕事は、相手(発注者、関係者など)と交渉することが主な仕事で、とにかく気を遣いま



2000年頃から使っている「つり手帳」。  
潮流や釣果などを細かく記録しています。

すので、神経が疲れてしまうこともあるのですが、そんな時に釣りに没頭してリフレッシュするのが一番の元気回復剤です。

釣りに行って、色々と記録をつけるのも楽しみの1つです。釣り日誌や釣果の記録も整理して次の釣行の参考に使っています。私の釣りは専ら一人ですね。一人で気ままに釣りをして、このときばかりは、相手のいない一人の時間を満喫しています。つい先日はアジが70匹ほど釣られて、大漁でしたよ。釣ったその場で頭と内臓を処理して持ち帰ります。煮付けや唐揚げ、南蛮漬け、一夜干しにみりん干しと、魚のためにも美味しいいただきます。みりん干しに使う漬け汁は、女房の秘伝の調合で、自宅の庭で採れた唐辛子を入れています。



大漁だったアジをみりん干しに。全て自分で作業して、完成品は美味しくいただきます。

冬季には、鹿児島まで車で行って、そこから渡し船で甌島へ渡って釣りをするのが楽しみです。釣り専用の車を1台持っていて、この車には釣りに必要な道具から野宿ができるようなものまで、なんでも載せています。着替えやガスコンロ、調理器具、食材なども載せているので、もしも家を追い出されたら、この車で生活しようと思っています(笑)。



釣り専用車。数日の野宿に耐えられる程度のグッズが揃っています。

## 読書もお好きで、多くの蔵書をお持ちですね。



蔵書が多すぎて全て二列に収納されています。重みに耐えかねて扉が開きづらい棚も。

気分転換には時代小説やノンフィクションものを読みますが、自分が知らないこと・わからないことを知りたいという探求心が湧くので、ジャンルを問わず沢山の本を読みます。自然と蔵書が増えて、本の重みに耐えかねて、本棚の扉が開かなくなってしまいました。

その他にも、会社の前に季節毎に咲く花は全て私が手塩に掛けて育てています。家庭菜園も作っていて、大好きなピーマンが今年も実っています。作り育てると言うことは、心を癒し、豊にしてくれるので、趣味と実益を兼ねています。

## 最近の業界の動向はいかがでしょう？

公共事業に関わる建設業は、社会資本の充実の一翼を担っているという自覚と誇りを持って働ける業界だと思います。民間の事業を請け負うのと大きく違うのは、その後の維持・管理が確実に必要になることでしょう。道路を1つ造ったとして、例えば地震が来てその道がひび割れれば、生活に支障が生じないよう、直ちに補修をしなければなりません。大雨が降れば、水害の発生に対処する準備にかかるため、私や専務は天候が悪いときには会社に詰めていることもあります。肉体労働ですので、3K・6Kと言われるような厳しい現場ということもあります。

社会資本の充実と維持・管理は必ず必要になりますので、消滅することは絶対にありませんが、成長と言うよりは、現状維持が宿命の産業といえます。

## 建設部会の部会長を長年つとめていただいておりますね。

山口市内には、山口県建設業協会山口支部という建設業の団体がありますが、この組織は「業者」のための団体という性格が強いです。山口商工会議所の建設部会は、まちづくりのために知恵を出すことのできる専門家の集まりでもあり、私は思っています。

私は山口市内の建設業関係者が仕事に有益となる情報により多く接することのできる機会を持てるように、できるだけのはやりたいと考え、毎年建設部会の活動計画を立て、実施するようにしています。最近では、毎年恒例でCPDSセミナーや、視察研修、山口市役所との懇談会を行っています。我々が小さな地方都市でもなんとか生き残っていられるように、より多くの部会員に参加してもらい、勉強して、みんなで受注を創り出していきたくと考えています。

## 今後の活動などについて教えてください。

毎年開催している視察研修ですが、今年は熊本に行くことにしました。

4月に発生した熊本地震からの復興が本格化し始めた今だからこそ、私たちも学ぶことが多くあると考えたからです。災害が起こったときに真っ先に動き出さなければならないのも、我々の業界です。橋が落ちれば復旧する作業に入らなければならないし、土砂崩れが起これば、重機で土砂を取り除く作業に入らなければならない。現場に立つ我々が、災害現場の近くまで行き実際に復旧作業の様子を視ることで、新たに発見できることも、勉強になることもあるでしょう。

地域のインフラ整備をするのは、地元の建設業以外にはありません。我々の業界が、少しでも元気に事業を続けていけるよう、これからもみんなで頑張っていきましょう。



大隈を考える会事務局として宗像社長が作成した小冊子。まちづくりについて、昭和60年から色々なことを考えてこられました。